

# 教育最前線

連載 1

鈴鹿市立牧田小学校 [自転車教室]

## 実際の交通場面を体験しながら、児童が安全な自転車通学の方法を身につける



児童を事故から守りたいという地域の方々の協力によって、小学校の外で行う実践的な自転車教室が開催されている

※1 鈴鹿モビリティ研究会＝鈴鹿市とHondaが、将来のより良い交通環境づくりをともに進めることを目的として1993年に設立され、道路環境の改善や交通安全プログラムの開発、教育の実施などを行っている。

※2 あやとりい同好会＝Hondaを定年退職した有志で構成され、ボランティアで幼児、小学生、高齢者などを対象にした交通安全教室で指導を行っている。

2月22日、三重県鈴鹿市立牧田小学校(栗本修校長)の6年生68名を対象に自転車教室が開催された。同小学校を卒業する児童のほとんどは鈴鹿市立創徳中学校に進学し、通学に自転車を利用する。今回の自転車教室では、児童たちが同小学校から創徳中学校まで自転車で走ってみるとい内容である。

指導を担当するのは、鈴鹿モビリティ研究会の相浦和則主任をはじめ、鈴鹿市役所や鈴鹿警察署の担当者、鈴鹿市交通安全教育指導員3名、牧田小学校PTAの方々12名、あやとりい同好会19名。

児童は4名で1つのグループとなり、各グループを相浦さん、あやとりい同好会のメンバーが先導して進む。鈴鹿市交通安全教育指導員や、牧田小学校PTAの方は途中の街頭に立って、児童にアドバイスを行う。児童は中学校入学後、通り慣れない通学



創徳中学校までの経路の中の注意すべきポイントで、どのようにアドバイスするかを事前に指導を担当する全員で確認

路と、乗り慣れない自転車の2つの環境の変化に直面する。今回は、自転車のルールを学ぶとともに、通学の距離感や道路の状況を経験すること、中学校への通学に使用する自転車に慣れることにも主眼を置いている。牧田小学校から創徳中学校までは2.5km以上の距離がある。

**ポイント①**  
自転車で行ったことのない距離を経験する

「ほとんどの児童は自転車で1回にこれだけの距離を走ることはあまりないの、思ったより長く感じたはず。さらに、幹線道路をどのくらいの数のクルマが走っているかを

### 実際の交通場面で学ぶ自転車のルール (14:00~15:00 牧田小学校~創徳中学校往復)



#### 1 自転車に乗る時はヘルメットを着用する

児童は自転車に乗る前に、全員がヘルメットを着用。牧田小学校では、自転車に乗る時(放課後や休日)はヘルメットを着用することになっている。これを受けて、PTAでもヘルメット購入の斡旋をしているので、小学校入学時に制服などと一緒に購入する保護者が多いという。



#### 4 車道では道路の左側端を走る

創徳中学校近くの道路は、路側帯もなく車道と歩道に分離されていない。先導する指導者らが道路の左側端を1列になって進むように伝える。

#### 2 見通しの悪い場所では左右の安全を確認

児童は創徳中学校に向かうため、まず自転車を押して校門へ。校門前の歩道に出る時は一時停止して、歩行者や自転車が接近していないか左右を確認する。歩道まで自転車を押してから自転車に乗り、後方を確認して出発。1列になって歩道を走行する。(牧田小学校~創徳中学校の経路にある歩道はすべて自転車通行可)



#### 3 横断歩道では自転車を押し歩き

信号機のある交差点にさしかかると、自転車横断帯がなく、横断歩道のみは一度、自転車を降りて、歩いて歩く。自転車横断帯が設けられている場所では、自転車に乗ったまま走行する。



#### 5 信号機のない交差点ではクルマの動きに注意

途中には信号機のない交差点がいくつかある。「止まれ」の標識がある場所では、必ず一時停止。「止まれ」の標識がない場所でも、通過する前に左右をよく確認して、クルマが接近していれば止まって待てる余裕を持つようにアドバイスした。



自分の肌で感じることもできたと思えます。こうしたことを早いうちに経験しておくことが余裕のある運転につながります」と相浦さん。

**ポイント②**  
集団で走っていても一人で走っているという意識を持たせる

牧田小学校から創徳中学校まで、児童たちはグループになって走る。指導する大人から「実際に通学する時のように、自分一人で走行しているという気持ちで臨むよう

に」と児童にアドバイスする。

「児童は前を走る大人が行くと安全だと思っ、安全確認が不十分になるケースがあるので、何に気をつけたらいいか考えてもらうようにしています」と相浦さんは言う。

**ポイント③**  
街頭で見守る大人からの適切なアドバイス

牧田小学校で生活指導を担当する杉本和寿教諭は、「街頭で見守る方々が、確認せ

実際に交通場面を体験しながら学ぶことの意義

牧田小学校では小学3年生から校庭での自転車教室を継続して行っており、今回はその総仕上げという位置づけだ。参加したPTA役員からは「中学校に進学したら、すぐに一人で自転車通学しなければいけません。事前に通学路を体験し、危険箇所を知ることができると、親としては安心できます」「校庭で練習しているだけでは、現実の交通に合わせた対応力を学べません。公道を走る自転車教室は学校やPTAだけでなく、地域の方々の協力で成り立っています」という声がかれた。

杉本教諭によれば、終了後のアンケートに児童は「大きな通りのクルマの量にびっくりした」「自転車横断帯のない横断歩道では、降りて押し歩きをしなければいけないことがわかった」「商業施設の駐車場から出入りするクルマに注意する必要がある」と感じた」と答えていたという。小学校、PTA、地域の方々の思いは児童たちに届いている。



経路の途中では、あやとりい同好会やPTAの方々が声をかけ、随時アドバイスを行った